

## 第3回 日本遺伝子細胞治療学会 若手研究会セミナー 報告

2019.1.7 記

2018年12月14日(金)に、東京慈恵会医科大学1号館3階講堂を会場としてお借りし、第3回の日本遺伝子細胞治療学会若手研究会セミナーを開催いたしましたのでご報告申し上げます。2016年から開始した本セミナーも3回目を迎え、前回に比べて準備の遅れがあり、十分な数の参加者が見込めるか最後まで不安は尽きない状況でしたが、結果的にはこれまでと同様、多数のご参加をいただき大変な盛会のうちに日程を終了することができました。以下が当日参加者の内訳となります。

	第1回(2016)	第2回(2017)	第3回(2018)
学生	17	6	10
企業	6	14	20
一般(大学・研究所等)	43	40	30
計	66	60	60

この表から、第2回に引き続き企業の方から多くのご参加をいただいている一方、今回は一般の参加者がやや少なかったことが見て取れるかと思えます。本セミナーに関しまして、その趣旨とともに今後より魅力ある研究会としての認知が進むことで、さらなる参加者数の増加が十分に期待できるものと確信しております。

今回のセミナーでは、一般演題を14題とし、さらに若手ワーキンググループメンバーを主体として提供するoverviewトーク等を4題加え、計18演題を含むプログラムを企画いたしました。多少時間割が変則的とはなりましたが、発表、質疑応答ともに十分な時間を確保するべく、ランチタイムを削り、1題につき18分間枠を設定して行いました。結果、どの演題につきましても発表内容、量的に申し分なく、聴衆の理解も得られ、有意義なディスカッションが行われていたように思います。特筆すべき点としまして、3回目にして初めて2社の企業から演題発表をいただいたこと、また競争馬理化学研究所からは、獣医療分野における遺伝子ドーピング問題といった、普段はなかなか拝聴する機会が得られない貴重なお話をご提供いただいたことなど、新たな流れを感じられた事が挙げられるかと思えます。全体として、遺伝病、各種がん、腫瘍溶解性ウイルス、CAR-T療法、多能性幹細胞、イメージング、ベクター開発、ゲノム編集等、内容が多様でかつ個々の研究、発表レベルが高く、ご参加いただいた皆様には十分にご満足いただけるセミナーであったものと思えます。

今回セミナー開催中に、次回のセミナーについてのお尋ねがあったと聞いており、本セミナーに対する関心の高さ、期待の大きさを感じますとともに、さらなるセミナーの発展に責任を持って注力する必要性を実感しております。詳細は追ってHP等を

通じご案内申し上げますことといたしますが、ひとまずは会場、日程を以下の通り予定しておりますので、カレンダーへの早めの記入をお願いいたします。

- 第4回日本遺伝子細胞治療学会若手研究会セミナー  
2019年11月22日（金）11:00 ~ 17:00  
東京慈恵会医科大学1号館3階講堂

本セミナーの開催に際しまして、参加者には日本遺伝子細胞治療学会若手研究会のメーリングリストにご登録をいただいておりますが、2017年度末には144名でありました登録者数が、本原稿執筆時点で162名まで増加しております。これまで、本メーリングリストの有効活用につき検討をしましたが、今後益々盛んになると予想される遺伝子・細胞治療の国内外における展開に関して、若手ワーキンググループメンバーから積極的に up-to-date で情報発信を続けて参りたいと思います。

本セミナーの開催にあたり、今回は10社の企業様より広告掲載を、また3社よりご寄付の形でご協賛をいただいております。本セミナーの運営・開催を維持しておられますのは、ひとえにこれらご支援の賜物と深く厚く御礼申し上げます。また、ご理解とご協力を賜りました日本遺伝子細胞治療学会理事会の皆様にも御礼申し上げます。東京慈恵会医科大学総合医学研究センター、大橋十也センター長には本会をご後援いただきましたこと、御礼申し上げます。最後に今回ご参加いただきました全ての皆様、および当日の会場設営・運営にご協力をいただきました日本遺伝子細胞治療学会事務局、慈恵会医科大学のスタッフの皆様にもこの場をお借りして心より感謝申し上げます（文責：大津）。



日本遺伝子細胞治療学会若手ワーキンググループ

上村 顕也  
河合 利尚  
小賤 健一郎  
小林 博司  
櫻井 文教  
中神 啓徳  
中村 貴史  
福原 浩  
柳生 茂樹  
中沢 洋三  
大津 真